



ニコちゃん教室 保護者様 へ



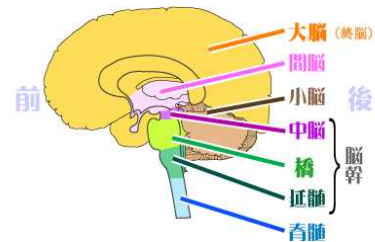
菅幼稚園
園長 平山 方夫

園長です。今、社会で幼児教育の重要性が大きく取り上げられています。幼児教育は、子ども本人および家族を幸せにし、社会貢献度も高いということが分かりました。それは、米シカゴ大学のノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマン教授が、良質な幼児教育を受けた子どもと受けられなかった子ども、合わせて約150人を40年以上にわたり追跡調査をした結果、幼児教育を受けた子どもたちの方が学歴、年収、犯罪逮捕歴などの点ですべて良好だったからです。

しかし、子どもが、ただ幼児教育を受ければ良いというわけではありません。幼児教育の効果をより引き出すには、それまでの家庭環境の中で子どもが大切にされている必要があります。それは、基本的信頼感により親子が強い絆で繋がり、子どもが心から安心して居る状態です。そういう状態でないと子どもの脳細胞は正常に発達しづらいのです。基本的信頼感、生後1歳頃までに形成されないと、その後、形成するのは難しいと考えられているものです。

乳幼児期の脳科学の研究から、もっとも大事なこととして『心が安定し、心地よい快適な状態にあれば、脳と心の発達が非常にうまくいく』ということが分かっています。これは理化学研究所脳科学総合研究センターの前チームリーダーである御子柴克彦(みこしば かつひこ) 東京大学名誉教授が話しています。逆に大きなストレスが続く環境下では、心に傷を残し脳の発達にも歪みが生じます。実際に脳の大きさが変わってしまうそうです。

要するに、心は脳の働きそのものであるということが、最近の脳科学によって分かってきました。



また、脳に延髄と橋(きょう)と呼ばれる部分があります。ここは「情動・感情」が繋がり3歳頃までで発達が終了します。3歳までに喜怒哀楽(怒哀は少々)をたくさん経験させてあげるとここが鍛えられ、例えば0歳から「いないいないばあ〜」でよく

笑わせていたりすると言葉を獲得した時の情緒が豊に育ちます。さらに、大脳の知能(知識)とバランスが保たれ感情が暴走することを防いだり冷静な判断ができるようになります。

このように子どもの発達には段階があり、あることを学習するのに適した時期を「臨界期」と言い、時期を逃すと身に付けにくくなるものもあります。

例えば大まかに、音楽的知性(絶対音感)…0~4歳くらい、論理数学的知性…1~4歳くらい、空間的知性…1~6歳くらい、言語的知性…0~9歳くらい、身体運動的知性…0~4歳くらい、社会的知性(対人関係知性)…0~8歳くらい、感情的知性(心内知性)…0~8歳くらい、と言われていいます。これらは生きていくために、子どもを取り巻く環境が子どもに影響を与えるもので、例えば、外国に引っ越した子どもが外国の幼稚園ですぐに英語が話せるようになったりする事だったりします。大人は子どもより順応性が劣るのは当然です。

この臨界期を利用して早期教育をということもありますが、早期教育には賛否両論があります。子ども自身が自然に楽しく学習するのであればどんどん知識を吸収していきますが、あまりにも偏りすぎたり全く興味が無いのに無理に続けていくと他とのバランスが崩れてしまいますので、基本的に子どもらしい生活の中で無理なく行うのが相応しいでしょう。そして、これらの身についた能力を維持するために、臨界期を過ぎててもなるべくその環境を続けていってあげてください。



ニコちゃん教室は、同年齢の子ども同士、お歌や絵本、製作、おゆうぎなど、親子一緒に同じ時間を楽しく過ごすことで、我が子の成長を感じて絆も深くなります。その中で自然と約束事や社会性が身についていきます。

子育ての悩みや心配事は、お気軽にお話し下さい。私たちも一緒にお子様の健やかな成長を見守ってまいりますので、よろしくお願いたします。